

第5回『共に生きる社会』めざして 高校生作文コンテスト

ベトナム医療福祉体験ツアー レポート

昨年実施した「第5回『共に生きる社会』めざして 高校生作文コンテスト」において、最優秀賞、優秀賞、佳作を受賞した5名のうち4名が、副賞の「ベトナム医療福祉体験ツアー」に参加し、ホーチミン市を訪れました。参加者は現地の医療福祉の実情を垣間見るとともに、さまざまな文化や習慣に触れるなど、多くの貴重な体験をしました。

【日程】2015年3月25日～30日

【主な訪問先】国立チョーライ病院、JICA 南部事務所、在ホーチミン日本国総領事館、リハビリテーションセンター、障害児支援施設、ホーチミン市内・郊外視察(メコンデルタツアー、クチュンネル、サイゴン大聖堂、戦争証跡博物館、統一会堂、ベントイン市場)

第6回
『共に生きる社会』めざして
高校生作文コンテスト

★応募締切★

2015年9月24日

詳しくは本学ホームページでご確認ください。

グローバルな活動に向けての一歩になった

鈴木 美紀 (宮城県仙台二華高等学校1年)

私は海外の医療どころか、日本の医療の実態についてもほとんど知りませんでした。海外は、マレーシア、ニューヨークの国連本部、シンガポールに行きました。異国での研修を重ね、将来は国際支援など、グローバルに活動したいと思うようになりました。

ベトナムに降り立って、まず感じたのは「暑さ」。それは気温の暑さであり、人の熱さでもありました。23時頃に到着しましたが、街は明るく、楽しそうに大勢で食事をする人や、バイクの上で寝ている人を見て、ベトナム人の自由さ、明るさを感じました。一番驚いたのは、バイクの多さ。それは、列車がないからです。通勤や子どもの送り迎えのため、バイクが主な交通手段になっているそうです。今、日本の協力を得て地下鉄を造っていると聞き、日本とのつながりを感じました。

チョーライ病院では、衝撃を受けました。待合室にあふれる患者さん。廊下にまで並ぶベッド。そして、集中治療室。体中に管が通っている患者さんに思わず目を背けてしまいました。日本では絶対に体験できないことを目と耳と心で感じる事ができました。

障害児支援施設では、孤児や栄養失調など、さまざまな事情がある子どもたちと触れ合いました。言葉が通じない子どもたちと接するのは不安でしたが、楽しい時間を過ごすことができ、将来への思いがより強まりました。

私の学校は、昨年度からSGH(Super Global High School)に指定され、私の学年から研究授業が始まりました。その内容は、各々が「世界の水問題」をテーマに、メコン川について論文を書くというものでした。私はメコン川の生態系維持という題で論文を作成しましたが、文献調査のみだったため、今回実際にメコン川に行ったことは収穫になりました。私は今年度も研究授業を選択したので、今回の研修を生かして新たなテーマで水問題について考えていこうと思います。発展途上国では水問題が深刻化しています。ベトナムも飲み水はミネラルウォーターでした。アフリカでは、教育困難が問題視されていますが、根本的な原因は水問題にあります。水が手に入らないため遠くの川に汲みに行く。子どもの手が必要となります。さらに、学校に行かせたくてもお金がなく、先生もいない。病気になっても医師が不足で診察ができない。このように、発展途上国の多くは貧困から抜け出せずにいます。

私の夢は世界中の子どもたちに幸せを届けること。今回のたくさんの出会いを胸に、一步一步夢に向かって歩いていこうと思います。



自分の新たな目標ができた

岡部 千尋 (群馬県立吾妻高等学校3年)



「シンチャオ」。これはベトナム語で「こんにちは」という意味で、私が初めて覚えた言葉でした。今回の研修では、ベトナムの文化や歴史に触れるさまざまな出会いのなかで、得たこと、考えさせられたことが数多くありました。

ベトナムに着いて、まず人の多さと暑さに驚きました。道路はバイクがほとんどの割合を占めており、中には1台に2～4人が乗っているものもありました。

チョーライ病院の見学では、外にまであふれている患者さんの姿を見て、医療職の不足を感じました。また、病室を見学した際に写真撮影の許可がありました。病室の中にカーテンもなく、病室の外にまでベッドがあふれている状態であり、ベッド数の少なさに加えて、プライバシーへの配慮に欠けていると思いました。ICUを間近で見学させていただきました。日本では経験できないことなので、将来看護師をめざしている私にとっても良い経験になりました。

障害児施設の訪問では、施設の子供たちと触れ合い、元気な姿と笑顔を見て、この子供たちの笑顔を守り続けなければならないという思いで胸が熱くなるとともに、戦争



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

についても考えさせられました。今でも枯れ葉剤の影響に苦しむ人々がいて、戦争証跡博物館では実際の写真や現場を見て胸が締めつけられました。

その一方、ホーチミン市の建物や道路、市全体がとても華やかで、人々で賑わっていました。まるで戦争などなかったかのようで、その背景には日本との深い関係がありました。ベトナムと日本の交流は活発で、ベトナムは日本を参考に建物や制度を作ったり、日本製の製品を多く扱ったりしています。日本からボランティアに来る人々もいます。日本はお手本になるような姿であるべきだと思います。そして、ベトナムがより良い国になればいいと思いました。そのためにも、今回の研修を生かして、将来看護師として何か貢献したいと思っています。

「日本が大好き」と言うベトナム。私も今回の研修でベトナムが大好きになりました。おもしろく優しく世話好きなベトナム人。短い時間でしたが、多くの方に出会い、お世話になったおかげで、良い経験ができ、私の新たな目標もできました。その方への感謝の気持ちを持ち続けて、目標に向かってがんばりたいと思います。

世界に目を向けるきっかけになった 稲葉 莉帆（近畿大学附属新宮高等学校3年）

「海外に行けば日本のことがよく分かる」

これはJICAの方がおっしゃっていた言葉です。これまで、海外に興味を持ったことがありませんでした。しかし、このツアーで、ベトナムのことはもちろん、日本がいかに恵まれた国であるかについても学ぶことができました。

とはいえ、ベトナムは予想よりはるかに都会的でした。高層ビルや企業のオフィスが建ち並び、ネオンでキラキラしていました。驚いたのは交通量の多さ。オートバイが大半を占め、車線や信号などの標識はあまり整備されていないように感じました。その影響からか、私たちが見学したチョーライ病院では、交通事故による患者さんが多いと聞きました。

そのチョーライ病院では日本の病院とのギャップの大きさに驚きました。人が待合室に入りきらず、廊下や階段で食事をしている人もいました。ベッドも足りず、病室の外に寝かされている患者さんもいました。ストレッチャーに乗った患者さんとエレベーターで鉢合わせたり、ICUや検査室に簡単に入れたり、患者さんと写真を撮っても良いなど、日本では当たり前のプライバシーの保護が、ベトナム屈指といわれる病院で未だ浸透していないことに驚きました。

しかし、日本ではできない多く体験が勉強になりました。障害児童施設では、子どもたちのかわいい笑顔とスタッフの方々の愛情に満ちた笑顔が印象的でした。ボランティアの心は万国共通と思う一方で、施設に子どもを置いていく親もいると聞き、やるせない気持ちになりました。戦争証跡博物館では、ベトナム戦争の残酷な写真を目の当たりにし、命より大切なものなどないと痛感しました。

観光はとても楽しかったです。きれいなコロニアル調の建造物、美味しいベトナム料理、メコン川クルーズで触れた美しい大自然——。このツアーで最も印象的だったのは人の温かさです。人懐っこく、みな本当に優しく思いやりにあふれていました。街を歩いていて日本人だとわかって握手を求められたり、日本語を教えてほしいと頼まれたり——。JICAの方のお話によると、日本はベトナムに多くの援助をしており、チョーライ病院や地下鉄を作ったりしているそうです。これからも日本とベトナムの友好関係がずっと続いてほしいと思います。

将来医療者を志す者として、海外の医療を間近で見たことは非常に良い経験になりました。今後は世界にもっと目を向けていこうと思います。そして、またベトナムを訪れたいです。



この経験を生かして理学療法士をめざす 鮫嶋 優衣（岐阜県立吉城高等学校3年）



この研修に参加して、「青年海外協力隊」として発展途上国のために働きたいと感じました。

ベトナムを訪れるまでは、道路も整備されていない、貧しいイメージしかありませんでした。しかし、空港を出ると、道路も整備されていて都会というイメージに変わりました。反面、5日間滞在しているいろいろな所を見学すると、まだ発展途上だと感じるものが多くありました。

チョーライ病院は診察を待つ人であふれかえり、入院患者さんが廊下で寝ているなど驚きを覚えました。多くの管理部門があり充実していると思いましたが、衛生面やプライバシー面などでは、まだまだ課題を抱えていることを知りました。また、街中では、車線を気にしない人が多く、バイクも2人乗りが普通で、いつ事故が起きてもおかしくない状況だったり、ゴミの異臭が漂うところがあったりして、衛生面の悪さを感じました。日本でもそうですが、外見は発展しているように見えても、細かく見ていくと、課題がたくさん潜んでいることがわかりました。

障害者施設ではたくさん子どもたちと触れ合いました。言葉という大きな壁がありましたが、触れ合うなかで、言葉が通じなくても心は通じるとわかりました。おでことおでこをコツンと合わせると満面の笑顔で喜ぶ姿に心に熱く感じるものがありました。ベトナムでは枯れ葉剤の影響で現在も苦しんでいる子どもがたくさんいると知り、驚きとともに、私にできることはないのかと感じました。

先進国ではより豊かな生活のために発展し続けようとしています。障害を持つ人たちが健常者といっしょに生活していける社会をめざしていく必要があると思います。ベトナムで出会ったたくさん子どもたちが、これからも笑顔を絶やすことなく生活していけるように、私は力になりたいと思いました。

今回の研修で、海外の医療現場や日常生活を初めて間近で見て、肌で感じることができました。日本から一歩外に出るだけで、こんなにも違うことがあるのだと刺激を受けました。そして、理学療法士をめざす自分自身の将来について考え直すきっかけになりました。この先、ベトナム以外の国にも視線を向け、世界の医療の現状を考えていきたいです。海外で多くの子どもたちの笑顔を作り、活躍していける理学療法士になりたいです。